

付録3 気象庁震度階級(1949)と参考事項(1978)

気象庁震度階級		参 考 事 項
階級	説 明	
0	無感。人体に感じない地震計に記録される程度。	吊り下げ物のわずかにゆれるのが目視されたりカタカタと音がきこえても、体に揺れを感じなければ無感である。
I	微震。静止している人や、特に地震に注意深い人だけに感ずる程度の地震。	静かにしている場合に揺れをわずかに感じ、立っでは感じない場合が多い。
II	軽震。大勢の人に感ずる程度のもので、戸障子などがわずかに動くのがわかる程度の地震。	吊り下げ物の動くのがわかり、立っでも揺れをわずかに感じるが、動いている場合にはほとんど感じない。眠っでも目をさますことがある。
III	弱震。家屋がゆれ、戸障子がガタガタと鳴動し、電灯のような吊り下げ物は相当ゆれ、器内の水面の動くのがわかる程度の地震。	ちょっと驚くほどに感じ、眠っている人も目をさます。戸外に飛び出すまでもないし、恐怖感はない。戸外にいる人もかなりの人に感じるが、歩いている場合感じない人もいる。
IV	中震。家屋の動揺が激しく、すわりの悪い花瓶などは倒れ、器内の水はあふれ出る。まは、歩いている人にも感じられ、多くの人々は戸外に飛び出す程度の地震。	眠っている人は飛び起き、恐怖感を覚える。電柱・立木などのゆれるのがわかる。一般の家屋の瓦がずれるのがあっても、まだ被害らしいものではない。軽い目まいを覚える。
V	強震。壁に割れ目が入り、墓石、石どうろうが倒れたり、煙突・石垣などが破損する程度の地震	立っていることはかなりむずかしい。一般家屋に軽微な被害が出はじめる。軟弱な地盤では割れたり崩れたりする。すわりの悪い家具は倒れる。
VI	烈震。家屋の倒壊は30%以下で、山崩れが起き、地割れを生じ、多くの人々が立っることができない程度の地震。	歩行はむずかしく、はわないと動けない。
VII	激震。家屋の倒壊が30%以上に及び、山崩れ、断層などを生じる。	

////////////////////////////////////// 地学と切手 //

インドネシア・プロモ火山

P.Q.

プロモ火山は東部ジャワのカルデラ内の岩滓丘である。カルデラ底からの高さは約200 m、海拔2329 mを示す。テンガー山のカルデラ内には東西と北北東—南南西の2方向に7コの噴火口が配列するが、プロモ火山は800×600 mの火口を有している。1838年には火口内は湖となっていた。

プロモ火山は火山灰や火山礫、火山岩塊を放出し、溶岩は流出していない。1915年、1948年には火山灰は付近の農地に被害を与えた。噴火の記録は1804年を最初として数年置きにくり返されているが、いずれも数日もしくは1月以内で納まり、長



くとも2月位で終わっている。岩質はSiO₂54~59%の普通輝石紫蘇輝石安山岩—かんらん石を含む普通輝石紫蘇輝石玄武岩である。

切手は1945年にオランダ領インドから発行されたものである。なお、1988年にインドネシアでも発行された。